

# 学校法人神谷学園 平成24年度事業報告書

## 1. 法人の概要

本学園は昭和36年11月に設立認可を受けて50年を経過、「教育基本法及び学校教育法に従い、大学その他の施設を設置して教育及び研究を行い、国際的視野を備えた社会性及び創造性と行動力豊かな人材の育成と地域社会への貢献を行うこと」を目的としてきた。

こういった中、本学園では将来への持続的発展を考慮して、平成19年度より大学を共学化すると共に校名を「東海女子大学」から「東海学院大学」に変更し、更に平成20年度より短大も大学と同様共学化すると共に、校名を「東海女子短期大学」から「東海学院大学短期大学部」に変更し、大学と短大の一体化と学園全体の合理化を推進してきた。

又、平成20年度には短期大学部が、平成21年度には大学が各々第三者評価を受審し認定をいただいた。その中で教学全般に良い評価を受けたものの、若干の問題点の指摘を受けたが、これらの点については今後の確に対応し、学園の発展に寄与させるべく対策を取る方針である。

平成23年6月には、前理事長の急逝という不測の事態に直面したが、役職員と全教職員の協力体制の下、これを乗り越えて更なる学園の発展を図っていききたい。

今後18歳人口の減少により、高等教育界の競合が厳しくなることが予測されるなかで、入口である新入学生数を4年連続して増加させており、出口である就職率も東海学院大学87.7%（前年90.8%）同短期大学部97.7%（前年98.8%）と良好な状況である。今後、学園の使命である教育面をさらに充実させ、着実に学園の持続的発展を図っていく方針である。

### (1) 設置する学校

#### 東海学院大学

・ 大学院	人間関係学研究科	臨床心理学専攻		(H24.5.1現在)
		入学定員	7人	現員 19人
・ 健康福祉学部	総合福祉学科	入学定員	80人	現員 171人
	食健康学科	入学定員	80人	現員 233人
		計	160人	計 404人
・ 人間関係学部	心理学科	入学定員	110人	現員 491人
		(3年次編入学定員	20人)	
	子ども発達学科	入学定員	80人	現員 229人
		計	190人	計 720人

東海学院大学 短期大学部

・ 児童教育学科 幼児教育専攻	入学定員	100人	現員	167人
ジュニアスポーツ教育専攻	入学定員	50人	現員	57人
	計	150人	計	224人

東海学院大学附属、東海学院大学短期大学部附属

・ 東海第一幼稚園	入学定員	340人	現員	136人
・ 東海第二幼稚園	入学定員	160人	現員	145人

(2) 役員・教職員数

イ. 役員数 (H. 25.3.31現在)

理事	8人
監事	2人

ロ. 教職員数 (専任教職員数)

(H24.5.1現在)

	教 員	職 員	合 計
法人本部	—	5	5
東海学院大学	73	27	100
東海学院大学短期大学部	21	10	31
東海第一幼稚園	10	2	12
東海第二幼稚園	11	1	12
計	115	45	160

2. 教育、研究における重点事項について

① 東海学院大学

- イ. 大学機関別認証評価の受審結果 (認定) への対応は、学園の経営改善計画に反映した。
- ロ. 臨床心理士指定大学院実地視察の評価を受けての改善事項の検討を行い、「臨床心理資格試験対策講座」を設置し、合格率の向上に努めた。
- ハ. 低年次を含めたキャリアサポート体制の整備では、昨年度に引き続き全学生を対象とする「就業力育成 TG セミナー」を毎週1講座開設、実施し、キャリア教育の強化、推進に努めた。
- ニ. 地域の学習拠点としての附属図書館の整備及び公開講座の運営では、地域住民のための公開講座の充実に努めるとともに、図書館内に「東海えほんの森」を開設し、幼児、保護者を主な対象とする絵本の読み聞かせの促進を図るなど、

図書館の地域貢献を拡充した。

- ホ. 教育研究上の目的の明確化に伴う教育課程の整備では、平成 25 年度実施予定の教育課程改革を行い、教養科目では全体を見直して点検・調整を進め、専門科目では全学科で卒業論文もしくは卒業研究を必修とするなどの改革に努めた。また、CAP 制を平成 25 年度入学生から導入し、成績評価の評語を改めた。
- ヘ. FD・SD プログラムの推進と整備では、従来に引き続いて授業アンケートの整備などを進め、成績評価の厳格化についても推進した。
- ト. 高大連携の推進と整備では、進学連携協定校を 2 高校、高大連携協定校を 7 高校についての提携を維持した。
- チ. 入学前教育・初年次教育の充実では、従来の漢字運用能力の強化策に加えて、各学科が独自の内容で専門用語の運用能力の強化策に努めた。また、事前に学生便覧（抜粋）を配付し、建学の精神、沿革、学部学科の教育研究上の目的の理解の徹底に努めた。
- リ. 産学官連携の推進では、課題の整理に努めた。
- ヌ. 教職課程の整備と教員免許更新制への対応においては、教員免許更新講習を 3 講習開設し、合計 192 名の受講者を得た。
- ル. 大学間連携コンソーシアム岐阜との連携強化については、従来に引き続いて連携を強化した。
- ヲ. 学園内連携 第一幼稚園、第二幼稚園との連携では、「東海えほんの森」の企画を通して、主に子ども発達学科の学生の実践的な教育・研究の向上に努めた。
- ワ. ぎふ清流国体、ぎふ清流大会への協力・支援を全学的に実施した。

## ②東海学院大学短期大学部

- イ. 第三者評価結果（適格と認定）に基づくシラバスに評価基準を明示することや研究活動の充実などの指摘事項の改善を引き続き推進した。
- ロ. 地域の子育て支援の中核を果たすべく地方自治体などとの連携を図り、産学官連携取り組みの充実を図った。
- ハ. 高校生の体験授業の受入れなどの高大連携、子育て支援などで地域貢献の充実を図った。
- ニ. 科目等履修生の受け入れ枠の充実・拡充に取り組んだ。
- ホ. 教員免許更新講習を企画実施した。
- ヘ. より社会で活躍できる幼児教育の人材養成のために教職課程教育の見直しを行った。
- ト. 四短一体化のための組織規則を整備し、事務局部長を四短一体とするなど事務局組織の統一を部分的に進めた。
- チ. 四短一体化による子育て支援センター（あそびの森）の充実・「ネイチャーあそびの森」実施の検討を図った。
- リ. 開講プログラムの多様化と充実に努めるなど生涯学習センターの充実を図った。

た。

ヌ. 火災を教訓とした防災体制の見直しを行った。

ル. 50周年記念行事の検討とともに、同窓会組織の活性化を図った。

ヲ. H24国体への協力・サポート体制の整え、協力を行なった。

### 3. 学生・生徒の募集について

#### 東海学院大学及び東海学院大学短期大学部の学生募集活動の結果

平成24年度の学生募集活動は、計画基本方針として掲げた受験生との直接面談の機会を増やすことを重点項目として、会場ガイダンス、校内ガイダンス、模擬授業、オープンキャンパスなどの活動を積極的に行った。その結果、東海学院大学は、平成24年1月から12月までの面談者数4,824名)において前年同時期と比べて約500名程(約12%増)が増加した。東海学院大学短期大学部の面談者数は856名で、前年比147名(約20%増)の増加となった。

しかしながら、高校訪問については、平成22・23年度は延べ600校程を訪問していたが、平成24年度は350校弱と大きく減少した。(高校訪問は、四短一体的に行っている。)

平成24年度学生募集活動の結果として、平成25年度の入学者数は、東海学院大学は学部1年生282名(入学定員充足率80.3%)、編入学生19名、大学院生10名、合計311名で前年度と比較して36名の減少となった。これは、人間関係学部心理学科の入学者数が前年度入学者数より45名減少したことが大きく影響したことによる。東海学院大学短期大学部の入学者は、80名(入学定員充足率53.3%)で、前年度に比べて29名の減少となった。

### 4. キャリア支援活動

#### 東海学院大学 24年度内定状況

	卒業生数	就職希望者数	就職者数(一時的職に就いた者含む)	内定率%
総合福祉	31	30	30	100.0%
食健康	37	35	34	97.1%
心理	108	83	71	85.5%
子ども	49	47	45	95.7%
合計	225	195	180	92.3%

東海学院短期大学部 24年度内定状況

	卒業生数	就職希望者数	就職者数（一時的職に就いた者含む）	内定率%
初等教育専攻	79	12	12	100.0%
幼児教育専攻	25	75	73	97.3%
合計	104	87	85	97.7%

- イ. 就職戦線厳しい中、学生の頑張りによって上記の通り堅調な結果となった。前年対比では、前年度と比べ、大学 1.5 ポイント増、短期大学部 1.1 ポイント減という結果であった。
- ロ. 昨年同様に四大の全学年対象に就業力育成TGセミナーを開講し、入学初年度から就職を強力にサポートする体制を敷いた。また、短期大学部 学年別就職ガイダンスを実施した。
- ハ. 平成23年度より継続して外部カウンセラーによる個別カウンセリングとハローワークのジョブサポーターによる求人紹介を実施し、実際の就職に結びついた。
- ニ. 学内での合同企業セミナー（2回）及びミニ企業面接会（2回）を開催した。

## 5. 施設・設備の整備について

### ① 東海学院大学

本館棟の耐震化に向けて、補助金申請も視野に入れながら耐震診断（再検討）、補強計画、実施設計、改修工事等の事業計画の策定に着手した。策定に基づき、補強の実施を早急に行い教育環境の充実につなげたい。

### ② 東海学院大学短期大学部

- ・ 事業計画の中で計画した、西キャンパスの緑化工事を行い、学内の美化を図り、台風による倒木等の危険がなくなるようにした。
- ・ 西キャンパス教職員駐車場のライン引き等西キャンパス教職員駐車場の整備を行った。

## 6. 東海第一幼稚園

### (1) 教育方針

以下の教育指導を行った。

- イ. 豊かな自然や広い運動場でのびのび育つ子供をめざし、「よく聞き、よく見てよく考える子」「思いやりのあるやさしい子」「じょうぶでひとりだちできる子」
- ロ. 子供達が友達やその周りの人達との関わりを深め、いろいろなことを感じ、

考え、思いやりの心が育つよう指導

(2) 主な年間行事の実施

- ・ 1学期 家庭訪問、移動動物園・遠足、父兄参観、個人懇談、お泊まり保育、夏まつり、子育て支援（年間を通じて）、中学生の職業体験
- ・ 2学期 清流国体開会式参加・信長まつり参加、運動会、大学祭参加、作品展、遠足、もちつき大会、おたのしみ会（クリスマス会）、中学生の職業体験、守口大根収穫
- ・ 3学期 人形劇、節分会、個人懇談会、発表会、お別れ遠足、お別れ会

(3) その他活動の実施

- イ・ホームページ、ポスター掲示、あそびの森、東海えほんの森などによる多様な情報を展開し、園児募集活動を実施する。
- ロ. 保護者（在園・卒園児）の協力も得て、募集活動を推進
- ハ. 未就園児教室「ちびっ子広場アイアイ」の遊びの会の充実、園庭開放や各種行事に地域住民の参加を積極的に呼びかけていく
- ニ. フォト新聞を各クラス毎に刊行し、保護者に配布する。

## 7. 東海第二幼稚園

(1) 教育方針

豊かな環境の中で、心も体もたくましく生きる力の基礎を育てる為、以下の教育指導を行った。

イ. やさしい子の育成

友達や先生とかかわって遊ぶ中で思いやりを持ち、物を大切にする心を育てていった

ロ. じょうぶな子の育成

いろいろな運動に興味をもち、伸び伸びと体を動かして遊ぶ活動を増やしていった

ハ. 考える子の育成

身近な環境に親しみ、感じたことや考えたことを素直に機会を多くしていった

(2) 主な年間行事

- ・ 1学期 家庭訪問、遠足、ふれあい参観、陶芸教室、個人懇談、お泊り保育
- ・ 2学期 運動会、遠足、作品展、クリスマス会、餅つき、親子守口大根収穫体験、個人懇談
- ・ 3学期 ふれあい参観、豆まき、学習発表会、お別れ遠足、お別れ会、清眺台公園清掃

(3) その他活動の実施

- イ. 携帯を使ったメールシステム『E 通信』を活用して、在園児に行事の写真を添付し様子を知らせる
- ロ. 各学期末にフォト新聞をクラス毎に刊行し、保護者に配布する。
- ハ. 未就園児には、催し物の案内をホームページ、ダイレクトメールを活用して広く来園を呼び掛けた。

未就園児教室『きっずクラブ』を年間12回開催して募集活動を推進した。  
ニ各学期末にフォト新聞をクラス毎に刊行し、保護者に配布する。

※ 両幼稚園に共通する事業として実施したこと

- イ. 東海学院大学人間関係学部子ども発達学科、東海学院大学短期大学部 児童教育学科との連携による、子育て支援等の社会的活動の実施
- ロ. 東海学院大学地域サポートセンターの食育支援による、「食育」及び給食内容の充実

以上